

新しいスカウト活動様式

基本的に自分が感染しているということを念頭に置き行動をすることを基本とします。野営生活は安全管理、衛生管理、それに加え感染予防等、指導者での注意事項が多くなるので、役務分担を明確にして、対応してください。本ガイドラインは参考ですので、普段の活動においても参考とし自隊でよく検討し実施してください。

◆移動に関するリスクの対応



「公共交通機関を利用」

公共交通機関での移動は密になりリスクを伴うとされているが、感染事例の報告はない。
自家用車での移動での感染事例は報告されている。

☆対策

- ① 電車内では密にならないようにスカウトを乗車させる(車両分散)。
- ② 会話を慎む。
- ③ つり革、取っ手等を触ることから下車時、手指消毒。
- ④ 乗用車ではマスクを着用し、対角線（例：運転席側窓、後部左側窓）の窓を開放し換気する。

◆キャンプ前の個人の健康管理



- ① 健康チェックリストを作成する。
(ア) 例：キャンプ前の14日間、体温測定と記録。
- ② 過去2週間に症状（摂氏38.0度前後の発熱、咳、息切れ、下痢、疲労（倦怠感）、頭痛、筋肉痛、吐き気、味覚や嗅覚の喪失、喉の痛み、嘔吐など）があったかどうかのセルフチェックを指導する。（保護者の協力）
- ③ 個人のチェックは学校で指導されている場合があるので活用も可能。

◆テント泊でのリスクの対応



テント泊では、密になることで就寝中に感染するリスクがある。

☆対策

- ① ソロテントの使用を推奨する。または23WSJでの指導者テントの場合は、互いのスペースが確保できることからソロテントと見なすことができる。
- ② 既存テントで対応する場合、4人用テントで2名程度を目安とする。
- ③ 指導者とスカウトは同じテントで宿泊しないこと。RSは成人指導者とみなす。
- ④ 互いの隙間に簡易なシートを配置することも対策として有効。

◆施設泊でのリスクの対応



施設の宿泊においては、収容人数により制限されていることを踏まえ施設の指示に従うとともに以下の点に注意する。

- ① 施設の収容人数に従い密にならない環境を整える。
- ② 指導者とスカウトは同室であってはならない。
*バンガロー、ケビン棟の場合。
 - ① 指導者とスカウトは同室（同棟）であってはならない。
 - ② 2段ベッドの場合、上の段で就寝する参加者の頭部の位置と下の段で就寝する参加者の頭部の位置を、逆向きにする。
 - ③ 横並びのベッドの場合、参加者の頭部の位置を隣接する寝台の参加者の頭部と反対側に配置する。
 - ④ 縦に連結したベッドの場合、スカウトのつま先を他のスカウトのつま先の近くに配置する。

◆食事でのリスクの対応（準備含む）



キャンプ、施設泊ともに食事の準備や食事時の飛沫感染リスクが極めて高いとされており厳密に管理する必要がある。

☆対策

- ① 準備に際しては特にマスクの着用を必須とする。
- ② 熱中症予防の観点から準備前に水分補給を指導する。
- ③ 炊事用具等はこまめな洗浄を行う。
- ④ 手洗いをこまめに行う。
- ⑤ 鍋等に煮込み具合を管理する場合も必ずマスクを着用。
- ⑥ アルコール消毒液は火気に絶対に近づけないこと(使用時も同様)。
- ⑦ 食事をするは対面にならない工夫をすること。
- ⑧ 同じテーブルに指導者とスカウト（RSを除く）が座らないようにすること。また、出来るだけ着座位置の間隔をとること。
- ⑨ 料理は大皿でシェアしないで小皿に分けること。
- ⑩ ビュッフェ式、サラダバー、セルフサービス、テーブル、カウンターサービス、その他、共同の調理道具を使用しなければならない配置を避ける。
- ⑪ カレー、大鍋等の料理を取り分ける際、特におかわりの際は、指定した者が行いセルフでの個別対応は避ける。担当するスタッフは必要に応じディスポグローブ等を使用する。
- ⑫ 食事前にソングや大きな声で、「いただきます」「ごとうさまでした」などの儀礼は注意する必要があり、実施しないことが望ましい。

◆手指の衛生手洗いと消毒をするタイミング



- ① 食べ物を食べる前（例：食堂に入る時）。
- ② キャンプに入る時・病気かもしれない人と接触した後。
- ③ 頻りに触られる場所（手すり、ドアノブ、カウンターなど）に触れた後。

- ④ トイレを利用した後。
- ⑤ プログラム用品、コンピューターのキーボード、マウス、クラフト道具など、共有のアイテムを使用した後。
- ⑥ 咳、くしゃみ、鼻をかんだ後。
- ⑦ コロナウイルスは食品媒介ではないが、食品サービスの従業員が感染すると、同僚や食堂利用者にウイルスを拡散する可能性がある。
- ⑧ 手袋を使った前後
- ⑨ 食品を準備する前後、および準備中。
- ⑩ 生肉、鶏肉、魚介類、卵を扱った後・ごみに触れた後。
- ⑪ カウンターを拭いた、あるいは化学薬品を使い他の箇所を洗浄した後。

◆アルコール系手指消毒剤の使い方



- ① 片手の手のひらに製品をのせる。
- ② 手をこすり合わせる。指の間、指先、手のひら、手の甲に、製品を確実に塗りつける。
- ③ 手が乾く（20秒程度）までこすり合わせ続ける。

※アルコール系消毒液等は、引火性が強く、消毒した直後に火を扱うと手等衣服に引火します。また、火の近くで散布しないこと。保管も高温の車内等をさけること。

◆入浴時のリスクの対応



密集回避

※COVID-19 がプール、風呂、または水遊び場の水を通して人々に拡散されるという根拠は現時点ではないとされている。

- ① 基本的に施設のルールに従うこと。
- ② 時間をずらした入浴スケジュールを作成し、施設を一度に使用する人数を制限する。

◆キャンプ中に感染が疑われる場合の対応について



※隊全体で取り組みとして考えること。

☆発熱等、感染が疑われるケースの発生として以下の点を考慮する。

- ① 医療機関、または保健所等に連絡し指示を仰ぐこと。
- ② 使用したと思われる機材、器具の消毒、テントの消毒を行う。
- ③ 原則、キャンプを中止することも検討する。
- ④ 当分の間、参加者全員の体調管理を確認する。
- ⑤ 帰路において公共交通機関の利用を避け、保護者等の送迎の協力を依頼する。
- ⑥ 帰宅後は陰性が判明するまで外出を避ける。
- ⑦ 感染が判明した場合、濃厚接触者の確認。（保健所への協力）
- ⑧ セーフ・フロム・ハームの観点から、情報の取扱いに注意する(SNS での拡散等含む)。

もし自分のおじいちゃんおばあちゃんに
うつしちゃったら……と想像してみる。

